大道芸 通信

編集発行/日本大道芸・大道芸の会 光田 憲雄 ☎03・3307・2146 (daidogei@kib.biglobe.ne.jp) http:// daidougei.seesaa.net

夏の生業

「つりしのぶ」といっても、ほとんどの人が知らないだろうが、かつては「風鈴」とともに、夏の風物として軒先に吊り飾られていた。そのため「吊り忍」と書いたが、首つりのようで縁起が悪いと言われるようになり、今では一般に「釣り忍」と書くようになったとされる。

構造は至って簡単。竹や針金等を芯にして形を作り、山苔を巻き付け形を整えれば基本的な部分は完成である。これに忍を巻き付けて完成。

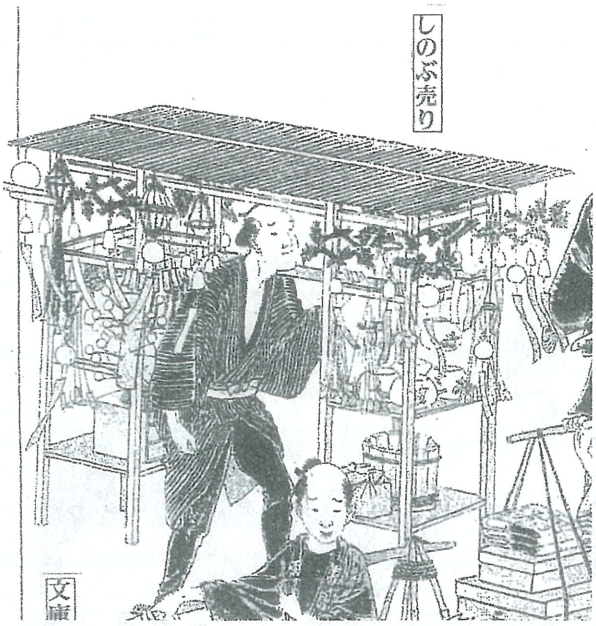
後は好みに応じて飾りをつけたり、十分な軒高があれば風鈴を組み込んだりした。

左図の「しのぶうり」は『風俗画報』が載すものだが、風鈴付きの軒高用のようである。

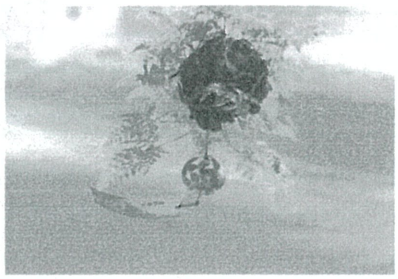
下記「釣り忍」の写真はネットから撮ったものだが、現在の基本型のようである。

これからは正確を期すため、ネットに書かれてあることをそのまま引用する。

《シノブは山地の樹木や岩肌に着生して育つシダで、強健で乾燥に強く、水がなくても"耐え忍ぶ"ことからシノブという名がつきました》



しのぶ売り（『風俗画報』）



《つりしのぶは、江戸の中期ごろに庭師たちがお得意様へのお中元用に作り始めました。その後、明治から昭和初期にかけて一般にも広まり、家々の軒先を飾るようになりました。風鈴をつけたものも多く、その涼やかな音色とともに夏の風物詩になっています。時代の流れで見かけることが少なくなりましたが、つりしのぶの端々しさは、空中に浮遊する小さなオアシスのよう。マンションやビルでも涼しげな風情を感じられますよ》（以上ネットのまま）

さぼん玉 勧進坊主 金比羅行人

「さぼん玉」は元来京坂の言い方、江戸では「玉屋」と呼んでいた。『守貞謾稿』はいう。「三都とも夏月専ら

さぼん玉売り、勧進坊主、金比羅行人（『新板大道彙図』石町　葛飾北斎）

これを売る。大坂は特に土神祭祀の日専ら売り来る。小児の弄物なり。さぼん粉を水に浸し、細管をもってこれを吹く時に丸泡を生ず。京坂は詞に『ふき玉やさぼる云々』江戸は詞に『玉や玉や玉や玉や』とある。

「勧進坊主」は、寺院の修理や建立資金を集めるために金員を集めること。今のクラウドファンディングに近い。ただし現在もそうだが繁華街などで鉄鉢を持ち坊主の姿をして、お経まがいを唱えている人がいるが、すべてが本物の坊主とあいえない。当時も同じこと。今以上に偽坊主がいた。

極端なものは「昨日まで小児の弄物なり。さぼん粉は勧進坊主だったのに、今日からは宗旨換え？して「金比羅行人（天狗の面を背負う行者）」ということも普通に行われていたようである。

蚊帳売り（『新板大道彙図』

今蚊帳（かや）と言われてすぐにわかる人は　六十歳以上使ったことのある人は七十歳以上だろう。若い人にとって昭和レトロと言われるから見たこと